

<先週の聖書から>

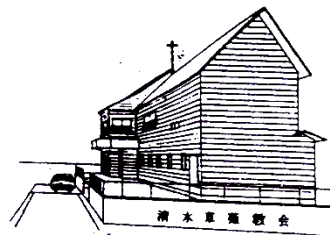
【漁師を弟子にする】ルカによる福音書5:1～を開きました。この見出しは新共同訳聖書による言葉です。少し前から新共同訳聖書を使い始めましたが、いろいろと考えてみるのは別の機会にして、この小見出しがあるのにすぐ気付きます。11節まで続きます。それに、同じ内容の記述が他の福音書では、どこにあるかも書いてあります。先週の箇所ですと、マタイ4章、マルコ1章などと、すぐに開いてみるができるようになっています。このような見出しですが、聖書をよくよく読もうとする時には、別のところで区切ったほうがよさそうに思えたり、他の見出しが適切だと思えたりすることがあります。まず、一応参考にはなりますが、これには拘束されない、ということ覚えましょう。またもっと細かに分けて、書いてあることの要点を連ねてみても、聖書がよく見えてきますので、やってみては如何でしょうか。

【奇跡】この週報を書こうと思って、思い出したのが一冊の本です。けっこう厚い本でしたが“主イエスの奇跡(だったか業だったか)”を紹介したものです(今探したのですが見つかりませんでした)。“水をぶどう酒に変える”とか“病人をいやす”とかいう見出しの並んだ本でしたが、この箇所がなかったことを不思議に思ったのです。“ついて来なさい”と語られてついて行くって、奇跡になるのではと、思うのです。“あなたも教会においで”と言ったらついてくるようなことがあったら、どんなに良い気持ちだろうと思った次第です。更に同じ出来事にほぼ間違いないだろうと思える、マタイの記録にもマルコの記録にも“漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった(6節)”という記録はありません。奇跡は、シモンの心の中に起こったようです。“さすが先生、十分の一を捧げますから、今夜はどこで魚が捕れるか教えて下さい”と私たちだったら云いそうな感じです。奇跡はシモンの心に起こりました。“しかし、お言葉ですから”と思わず返事をさせられた魂を祝福するかのよう、大漁の奇跡が起こったのでしょ。他の福音書では本質的なことではないので、このことには触れていません。ルカは丁寧に説明しています。日毎の手の業を、私たちは、本来大切にしなければならないのですが、それをも超える驚きとして、彼らの心を打ったのです。

【私たちも同じ】教会に集う私たちは、この弟子と同じ経験を、実はしているのではないのでしょうか。シモンと同じ時があったようです。“何故主に従ったのか?”と後にシモンに質問してもよく説明できない様な“驚き”をこの弟子たちは、経験したのです。そして変えられてきたのでしょ。“あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかった。主であることを知っていたからである(ヨハネ21:12)”と説明される者に変えられたのです。その姿が子供の様に幼稚であったにせよ、教会がそうなのです。変えられた者たちなのに、あの時の驚きは“なかったことにしよう”とは、できない群れなのです。受洗の時の驚きを思い出しましょう。“あなたたちは、天の父が導いて下さらなかつたら、私のもとに来ることはなかった。私は、あなたたちを私の保護のもとにおいた。もはや恐れることはない(カルヴァン、説教『エフェソ書第一章』から)”なのです。

週報

2011年 1月 23日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042